

マルチメディアDAISY図書の利用促進を図るために —学校と図書館が連携できること

福知山市立図書館
館長 塩見英世

福知山市立図書館は、京都府の北部に位置し、昨年6月に中央館が新しくJR福知山駅前にオープンしたばかりです。新館がオープンする前から、図書館サービスが届きにくい立場にある人の特性やニーズについて、当事者や研究者を講師に招き、職員研修などを重ねてきました。

公共図書館において、地域の学校現場との連携は、とても大切な役割をもっていると考えています。

このたび、伊藤忠記念財団からのご協力を得ることとなり、つぎのような観点からの事業を行いました。

- ①マルチメディアDAISY図書の理解を広めるために、タブレット端末を学校に貸し出す。
- ②マルチメディアDAISY図書への子どもたちの関心と効果を検証する。
- ③タブレット端末の活用により、特に読み書きに障害のある子どもたちへの効果を検証する。

学校に貸し出すタブレット端末をどう確保するのか

まずは、学校に貸し出すタブレット端末をどう確保するのが課題となりました。一般的に平均的な学校予算では、必要な台数のタブレット端末を購入するのはなかなかむずかしい面があるのが現状です。

そこで、私たちは、市内の学校に貸し出すタブレット端末を寄贈してくださる寄贈者・寄贈団体を募ることにしました。

つぎに、市内にマルチメディアDAISY図書を必要とする子どもたちがどのくらいの人数がいるのかについて調査を行いました。

そして、マルチメディアDAISY図書を有効に活用するため、公共図書館と学校現場との連携のあり方を検証することにしました。

図書館では低調だったが、 学校ではじゅうぶんに活用された

(1) 図書館で試的にタブレット端末 を貸出したところ……

- ① マルチメディアDAISY図書への理解が広まっていないので、残念ながら低調でした。
- ② また、図書のコンテンツ数が少ないため、個人に貸し出した場合、興味をもたれる図書に限界があり、複数回貸出を希望されることがなく、貸出の増加にはつながりませんでした。

(2) 学校での利用は……

- ① 授業や放課後など、教室においてマルチメディアDAISY図書が活用されました。
- ② また、特定の図書に興味をもち、同じ図書を繰り返し見て聞くとという傾向が見られました。
- ③ 年々図書のコンテンツが増え、さまざまな図書から、自分の好きなものを探すのを楽しみにしています。

(3) マルチメディアDAISY図書だけでなく、 タブレット端末を活用することの可能性を目指して……

- ① 視覚訓練士の助言なども得て、タブレット端末をさらに有効活用できるように検討を進めました。

- ② 視覚に障害のある子どもたちがタブレット端末を有効に利用するために、眼科医院などが開催している研修会との連携を図りました。

マルチメディアDAISY図書の 活用方法と今後の課題

まず、第一に実感したのは、「障害のある子どもたちの読書支援として、マルチメディアDAISY図書がある」という認識を学校関係者や保護者、さらには一般の市民に向けて、広げていくための取り組みが必要であるということでした。

そのためには、対象者のいる学校と図書館が連携し、障害のある子どもたちに対する読書支援の実践をもっと広げていく必要があります。

また学校に必要な数のタブレット端末を貸し出すとともに、学校現場において、マルチメディアDAISYの利活用を行い、効果の検証を続ける必要があります。

障害のある子どもたちの支援をさらに充実させていくためには、マルチメディアDAISY図書だけでなく、タブレット端末の有効利用についても、学校など関係機関と連携を図りながら、研修を深めていく必要があります。

現在、小学校だけにマルチメディアDAISY図書を貸し出していますが、

今後、中学校への貸し出しも検討する必要があると考えています。また、学校図書館との連携の仕方についても研究を深めていくことが求められているでしょう。



館内に設置したマルチメディアDAISY図書の紹介コーナー